

5月の園だより

学校法人志賀学園

平第二幼稚園

平成30年5月1日

爽やかな風の中、こいのぼりが元気よく大空を泳ぎ始めました。子どもたちも、こいのぼりを追いかけて、大空に向かってジャンプする姿がとても清々しいです。

泣きながら登園して来ていた新入園児の皆さんも、一人ひとり泣いている時間が短くなってきて、今では泣かずに生活できるようになりました。

日々の生活の積み重ねが、安定した生活へとつながっているようです。

また、進級児は集団生活に慣れてはいるものの、新しい環境に緊張感を持って生活しているお子さんもおりますので、子ども一人ひとりと心を通わせ、子どものことばや態度に共感し、より良い信頼関係を築いていけるようにしていきたいと思っております。

さて、総会でもお話しさせて頂きましたが、クラスの様子をご紹介します。

もも組さんは、時々お父さんやお母さんを思い出して泣く時もありますが、おんぶや抱っこで先生に温かく関わってもらうことにより、安心した気持ちで過ごすことが出来ています。

ばら組さんは、お家の方から離れる時に泣いても、お部屋に入るとすぐに泣き止み、興味を示したブロックやおままごとで遊んだり、ぬり絵や先生に作ってもらった剣やステッキで遊んで楽しむ姿も見られ、生活のリズムや1日の流れも覚えて来ました。

進級児さん53名、新入園児さんを5名迎えたすみれ組さんは、始めは新しい環境に緊張感も見られましたが、新しいお友だちや先生の名前も覚え、お部屋でピザ屋さんやケーキ屋さんごっこをしたり、いろいろな材料を利用しておもちゃを作ったり、園庭の遊具で活発に遊ぶ姿が見られます。

さくら組さんは年少組からの流れで、1組、2組のクラスの隔たりなく、お部屋を行ったり来たりして交流を深めています。新しく入園した弟や妹、バスで一緒のもも・ばら組さんの手を引いて面倒を見たり、年長さんとしての意識も見られ微笑ましいです。ルールのあるゲームにも興味を示し楽しんでおりますので、外遊びも充実して行きたいと思っております。

ようやく園生活に慣れたのもつかの間、いよいよゴールデンウィークに入ります。毎年、連休明けの子どもたちは、甘えん坊や泣き虫さんが多くなるなど4月のはじめの頃に戻ってしまうケースも少なくありません。でも、子どもたちはすぐに園の感覚を取り戻しますので心配ありません。連休中も疲れ過ぎないように、規則正しい生活を心がけましょう。

子どもたちは今、スタートラインに立ったところです。この時期は、木でいえば、根っこの部分をしっかり育てておく時期です。子どもの歩調に合わせ、保護者の皆様と共に、長い展望をもって育てて参りたいと思っておりますので、宜しくお願い致します。